

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
601	大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	C	
	①大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ②各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示		
602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	B	C
	①大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数 ②適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授又は助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ③学士課程における教養教育の運営体制		
603	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	C	
	①教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ②規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
601① 大学として求める教員像は、「学校法人龍谷大学就業規則」に定めている [601a] が、昨年度、自己点検・評価の結果、努力課題と指摘された「求める教員像」については未だ策定できていない。求める教員像が設定されるまで、当面の間、「教育職員の採用募集に関する申し合わせ」[601b]に基づき、教員の採用募集段階において、本学の教育活動においては建学の精神を尊重するということを募集告知文に明記している。 601② 各学部・研究科等の教育組織の編成は、「教育職員選考基準」[601c]や各学部の「教員人事規程」に定め明示しているが、昨年度、自己点検・評価における努力課題とされた「教員組織の編成方針」については、未だ策定できていない。 602① 各学部の専任教員数は、文学部：73名、経済学部：46名、経営学部：37名、法学部：41名、理工学部：101名、社会学部：54名、国際学部：39名、政策学部：24名、農学部：44名、短期大学部：13名、法務研究科：10名であり、大学全体としては、490名の専任教員が在職（2016年4月1日現在）しており、大学設置基準上、必要な教員数を満たしていると認識している。 602② 各学部では、教員採用時、主たる授業担当科目のカリキュラム上の必要性、担当する上で適切な身分や募集方法をその都度確認しており、国際性や男女比等も踏まえて選考を行い、適正に専任教員を配置している。

採用手続きの適切性については、「教育職員選考基準」に則り、学部長会が合意プロセス [602a] の中でその都度点検しており、適切な教員組織編制となるように措置が講じられていると認識している。

また、研究科担当教員については、「大学院担当教員選考基準」[602b] を定め、担当分野に必要な教育研究上の指導能力を明示し、これに則って選考しており、適正に教員を配置していると認識している。

教員の授業担当負担については、「専任教員の担当授業時間数に関する基準」[602c] を定め、教員の職位に応じて担当する授業時間数を定めている。加えて、専任教員が役職の兼務を命ぜられた場合の負担軽減の措置として、「専任教員役職兼務者にかかる負担軽減措置要項」[602d] を定め、役職に応じて担当授業時間数を減じることができるよう措置している。

また、専任教員の担当授業時間数の適正化を図るため、2015 年度、部局長会のもとに「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」を設置し、役職者の負担軽減及び労務管理の観点及び教育研究の時間確保の観点から、教員の過度の負担を軽減する必要性等について検討を行い、答申 [602e] としてとりまとめ、その内容が部局長会で諒とされたが、未だその内容を規定化するまでには至っていない。

602③ 教養教育科目担当教員は、いずれも各学部にも所属し、教授会の構成員となることで、学部全体の組織的な連携体制を確立している。加えて、教養教育科目は、学部横断的な教育課程であることから、より組織的、効果的に教育展開するために教養教育センターを設置して教養教育科目の全体的な運営を行い、審議が必要な事項については、教養教育会議で審議している。

603① 教員の募集・採用・昇任等については、「教育職員選考基準」及び各学部が定める「教員人事規程」に基づき行っている。募集・採用に際しては、まず担当する主たる授業担当科目のカリキュラム上の必要性を確認した上で、適当な身分や募集方法を確認しており、職位ごとに行っているものではない。

603② 教員の募集については、「教育職員選考基準」及び各学部が定める「教員人事規程」に基づき、各学部教授会で募集方法を決定し、公募又は推薦のいずれかの方法によって行っている。

採用手続きの適切性については、「教育職員選考基準」に則り、学部長会が合意プロセスの中でその都度点検している。昇任については、「教育職員選考基準」第 10 条に基づき、同規程第 4 条の昇任の基準に該当する者について、各学部教授会で発議し、全学の専任教員に推薦依頼を公示している。

しかし、これら教員職員の選考基準については、大学基準協会から、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部（現、国際学部）を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否かについては多少不明瞭な部分が認められる」との助言がなされているが、このことについて、未だ検討がなされておらず、その必要性に対する学内的な共通理解を図り、検討に着手する必要があると認識している。

長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
601①	「求める教員像」の策定
601②	「教員組織の編成方針」の策定
602②	「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」検討結果の規定化
603②	「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
601①②	昨年度、努力課題となされた「求める教員像及び教員組織の編成方針」は未だ策定できていない。求める教員像が設定されるまで、当面の間、「教育職員の採用募集に関する申し合わせ」[601b]に基づき、教員の採用募集段階において、本学の教育活動においては建学の精神を尊重するということを募集告知文に明記している。
602②	2015年度、部局長会のもとに「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」を設置して、労務管理の観点及び教育研究の時間確保の観点から、教員の過度の負担を改善に資する取り組みを検討し、答申[602e]としてとりまとめ、その内容が部局長会で諒とされた。しかし、現在、その内容を規定化するまでには至っていない。
603②	大学基準協会から、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部（現、国際学部）を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否かについては多少不明瞭な部分が認められる」との助言がなされているが、このことについて、未だ検討がなされていない。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
601①	「求める教員像」の策定に向けて、学部長会を中心に検討を進める。
601②	「教員組織の編成方針」の策定に向けて、学部長会を中心に検討を進める。
602②	「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」検討結果の規定化に向けて、担当部署と連携して取り組む。
603②	「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化に向けて、学部長会を中心に検討を進める。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
601	a	学校法人龍谷大学就業規則
601	b	教育職員の採用募集に関する申し合わせ
601	c	教育職員選考基準
602	a	補充人事フローチャート
602	b	大学院担当教員選考基準
602	c	専任教員の担当授業時間数に関する基準
602	d	専任教員役職兼務者にかかる負担軽減措置要項
602	e	専任教員の担当授業時間数の適正化に向けた検討結果について（答申）

Ⅱ. 評価結果

総評
601①②大学として求める教員像及び各学部・研究科等の教育組織の編成は、昨年度の自己点検・評価にて努力課題と指摘されたことに対し、年度末に改善報告書が提出されたが、未だ策定できていない状況にある。自ら策定期日を2017年度末と設定されていることを尊重し、完遂に期待したい。 602①各学部の専任教員数は、大学設置基準上必要な教員数を満たしていることが確認できる。 602②専任教員の担当授業時間数の適正化を図るため設置された「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」において、教員の過度の負担を軽減する必要性等について答申としてとりまとめ、部局長会で諒とされたが、未だ規定化するに至っていないことについては、早急な対応が望まれる。 602③学士課程における教養教育の運営体制については、本学の状況に鑑み、適切に運用されていることが確認できる。 603①教員の募集・採用・昇任等については、「教育職員選考基準」及び各学部が定める「教員人事規程」に基づき行っていることが確認できる。 603②教員職員の選考基準については、国際学部を除き「教員人事に関わる選考基準の目安」が設けられていないことから、今後の検討及び設定が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否かについての基準が不明瞭である点については、未だ検討がなされておらず、その必要性に対する学内的な共通理解を図り、検討に着手することが望まれる。
長所・特色《箇条書き》
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「求める教員像」の策定（期日：2018年3月末）に努めていただきたい。【努力課題】 ・「教員組織の編成方針」の策定（期日：2018年3月末）に努めていただきたい。【努力課題】 ・「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」検討結果の規定化に努めていただきたい。【留意点】 ・「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化に向けて努めていただきたい。【留意点】

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価 現状 改善	
604	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	B	B
	①ファカルティ・ディベロップメント(FD)の組織的な実施		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
604	龍谷大学として、ファカルティ・ディベロップメント(FD)を「各教学主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指したすべての取り組み」と定義し、各学部・研究科のFD活動の取組状況や成果を全学で共有するため、報告会を開催し[604a]、情報共有とFDの普及を図った。また、スチューデント・グローバル・ナレッジの3つの機能別コモンズから成る龍谷大学ラーニングコモンズにおける2年間の取組について、開設から今日までの歩みを振り返り、今後の課題や可能性について検討・共有するために、「第12回龍谷大学FDフォーラム2016」[604b]を開催した。
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
604	特になし
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
604	特になし

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
FDフォーラムについては、上述のとおり全学的なテーマとし、また、FDサロンのテーマについては、「瀬田学舎における英語教育の現状と展望」「教学マネジメントとFD・SD（専任教職員向け）」「大学教員の職能開発とFD（新任専任教員向け）」及び「シラバス作成の手引き（説明会）」等、多くの教員の参加が見込めるよう、汎用的な内容とした。[604a 3 教育活動交流・研修]	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
604	学修支援・教育開発センターが主催する全学的なFD行事の促進

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
604	a	2016 年度学修支援・教育開発センター事業総括
604	b	「第 12 回龍谷大学 FD フォーラム 2016」チラシ

II. 評価結果

総評
604 建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するため、組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指し、FD 活動を積極的に展開している。2016 年度においても、各学部・研究科が FD 報告会を積極的に開催すると共に、FD 活動の取組状況や成果を全学で共有できる体制が整っていることは評価できる。また、2015 年 4 月に開設したスチューデント・グローバル・ナレッジの 3 つの機能別コモンズから成る龍谷大学ラーニングコモンズにおける 2 年間の取組を振り返り、今後の課題や可能性について検討・共有することを目的に、FD フォーラム 2016 を開催されたことは意義深いと判断する。さらに、多くの教員の参加が見込めるように汎用的な内容とした FD サロンの開催も評価できる。
長所・特色《箇条書き》
・全学的な FD 活動の一環として「FD フォーラム」を開催していることは評価できる。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

2017 年度（対象年度：2016） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目 点検項目（評価の視点）	自己評価 現状 改善	
604	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	B	B
	①教員の教育研究活動その他諸活動の評価とその結果の活用		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
604	① 本学の内部質保証システムの1つの視点である「教員個人の諸活動に対する自己点検」として、教員活動自己点検を実施している [604a, b]。全学的取り組みとして、2011 年度から全専任教員対象に、教員各自が自身の活動に対し自己点検を行う機会となっており、教員の資質向上を図るための方策として位置づけている [604c]。2016 年度は期首において 94.0%、期末においては 96.9%（対象 588 名中、未入力者 18 名）の入力がなされている。一部例外を除き、ほとんどの教員がこの取組を利用していることから、個人的な活用は一定以上になされていると判断している [604d, e]。ただし、制度開始から 6 年が経過しているものの、組織的な活用の取り組みが弱い組織があると認識しているといった課題を有している [604f]。これについては、2015 年度から展開している第 5 次長期計画第 2 期中期計画 Act-p において、「教育職員の自律的な活動支援方策の実質化」を策定する中で、教員活動自己点検の組織的な活用を促すための方策を検討し [604g]、2016 年度には、活性化（実質化）に向けた制度設計を提案（2016 年度第 3、4 回全学大学評価会議）した [604h, i]。まず、提案に先立ち、活性化に向けた方向性を確認し、その上で、組織的活用方策の検討と組織的活用を視野に入れた手引きの作成、実施時期の変更を提案した。教養教育や学部共通コースを含む各組織において検討された活用方策の検討結果をもとに、学部・研究科別に整理・統合し、各組織に手引きを作成した [604j, k]。また、特に教育領域の振り返りについて、（前期終了時などの）期中においても点検した内容を入力できるようにシステム改修を加え、2017 年度から運用することを決めた [604l]。教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けた取組を行うことにより、教員の資質の向上を企図し、組織的かつ多面的な実施運営を繰り返すことで、教員及び教員組織の改善につながっていると評価している。
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
604	2011 年度以降、継続的に教員活動自己点検を実施している。
604	他者評価に頼ることなく、自主・自律の点検活動を組織的に整備している。
604	本学の内部質保証を支える 1 つの方策として位置付いている。
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
604	教員活動自己点検の結果について組織的な活用にまでいたっていない組織がある。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
604①	2016 年度は自己点検・評価の結果において、次の努力課題が付された。「全学大学評価会議にて承認された「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」に定めた「目標」が達成されるよう、具体的な方法の早期策定に期待する。【努力課題】」。努力課題が付された時期に並行して、担当理事者間において審議し、制度設計を行った。結果、2016 年度第 3 回全学大学評価会議において、「組織的活用方策の検討と組織的活用を視野に入れた手引きの作成」と「実施期間の変更」を提案し、各組織との往復審議を経て承認されている [604]。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
604①	各組織において策定した、教員活動自己点検の点検結果を組織的に活用するための方策に関して、2018 年度に活用する際のベースとなる、2017 年度の教員活動自己点検の入力状況を注視する。
604①	期中入力状況に関して、後期開始時に概観する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
604	a	龍谷大学内部質保証のあり方について
604	b	教員活動自己点検に関する実施要項
604	c	教員活動自己点検 点検結果の活用に関するガイドライン
604	d	2016 年度 教員活動自己点検 入力状況（期首）
604	e	2016 年度 教員活動自己点検 入力状況（期末）
604	f	2015 年度 教員活動自己点検の総括について
604	g	教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）
604	h	教員活動自己点検の実質化方策について(提案)
604	i	教員活動自己点検の実質化について(提案)
604	j	教員活動自己点検 点検結果の組織的活用方策一覧
604	k	教員活動自己点検の手引き（文学部等の例）
604	l	教員活動自己点検の実質化について(提案)

Ⅱ. 評価結果

総評
604①「教員個人の諸活動に対する自己点検」として、教員活動自己点検を実施していることは評価できる。ただし、組織的な活用の取り組みが弱い組織があるとの認識に立ち、教員活動自己点検の組織的な活用を促すための方策を検討し、2016年度において、組織的活用方策の検討と組織的活用を視野に入れた手引きの作成や実施時期の変更を行ったことは評価できる。教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けた取組を行うことにより、教員の資質の向上を企図し、組織的かつ多面的な実施運営を繰り返すことで、教員及び教員組織の改善につながっていると評価する。
長所・特色《箇条書き》
・2011年度開始以降、継続的に教員活動自己点検を実施していることは評価できる。 ・「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて」に定めた「目標」を達成するため、具体的な方法を検討され、「組織的活用方策の検討と組織的活用を視野に入れた手引きの作成」と「実施期間の変更」を実施されたことは評価できる。
課題事項《箇条書き》　＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・引き続き、学部等組織における教員活動自己点検結果の組織的活用の促進に取り組んで頂きたい。【留意点】